

アクアチタンに リラックス効果

アクアメタル研究会確認
水溶性金属の有用性などを調べている「アクアメタル研究会」（代表、吉川敏一・府立医大学長）は23日、京都市上京区の同大学学友会館で会見し、臨床研究でチタンをナノレベルで水中に分散させた「アクアチタン」のリラックス促進効果を確認したと発表した。写真。

臨床研究は、府立大の青井渉助教らが中心となって実施。昨年末、国際学術研究誌で発表した。40〜65歳の事務職男性24人を選び、本人らには知らせず、半数は壁や床マット、シーツにアクアチタンを染み込ませた部屋で、半数は通常の部屋で、それぞれ計5泊してもらい血中ストレスホルモンの濃度などを調べた。

主観的ストレス度は一般室組ではやや上がったが、



チタン室組は低下。血中ストレスホルモン濃度は、一般室組では上昇。チタン室組では初期にやや増えたものの、最終的には減少傾向となった。逆に副交感神経活動レベルはチタン室組が上回ってリラックスしている状況を示したという。吉川学長は「効果があることは明らか」としている。

同研究会は、平成19年に同医大で健康器具メーカーのファイテン（京都市中京区）の寄付講座が開かれたのを契機に発足。素材は同社が提供している。